

令和3年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

技術支援課
(普及指導室)

生育の概況	小麦の出穂期は平年より5～8日早まっている。現在の作柄は「並」が見込まれる。
作業の進捗状況	赤かび病等防除

1 気象経過 (前橋橋地方気象台データの平年比、※4月は20日まで、参考資料参照)

項目	11月	12月	1月	2月	3月	※4月
平均気温	+1.5℃	+0.3℃	+0.5℃	+2.3℃	+3.5℃	+1.2℃
降水量	8%	0%	105%	95%	117%	71%
日照時間	113%	107%	92%	116%	102%	105%

2 生育概況

(1) 概要

播種時期は好天が続いたため平年よりも播種作業は順調だったが、一部で12月まで行われた。播種が遅れたほ場および砕土が粗いほ場では、少雨による過度の乾燥のため出芽が不揃いとなった。

1月中旬までは低温と乾燥のため生育が停滞したが、1月下旬以降は定期的な降雨があり、気温も著しく高く経過したため生育は大幅に前進している。出穂期は、平年と比べて二条大麦が7日～10日、六条大麦が4～5日、小麦が5～8日程度早まっており、成熟期も平年より早まると見込まれる。

播種後の乾燥により出芽不良となったほ場ではほ場内での生育に大きな差が見られている。過繁茂なほ場では倒伏が懸念される。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

一部で雑草の発生が多い。

湿害は平年より少ない。

(3) 作況ほ等の調査結果

作況ほ(さとのそら)のデータの平均は、播種期は11月19日(過去平均比-2日)、3月20日現在の草丈が24.5cm(同105%)、茎数が1243本/m²(同101%)、幼穂長が3.4mm(同109%)、出穂期は4月15日(同-5日)となっている。

農業技術センターの生育基本調査結果(小麦「さとのそら」、11月17日播種)では、4月10日現在、草丈が68cm(過去10カ年平均比133%)、茎数が557本/m²(同72%)であり、節間伸長始期は3月18日(同-6日)、出穂期は4月16日(同-8日)となっている。今後気温が平年並で推移した場合、4月20日現在で予想される成熟期は6月4日(同-6日)となっているが、平年より1℃高く推移した場合は6月3日、2℃高い場合は6月2日と予想される。

(4) 作柄のまとめ

小麦の作柄は、館林が「やや良～並」、その他の地域が「並」であることから、県内の平均作柄は「並」が見込まれる。

表1 小麦作況ほ調査結果（さとのそら）

地区	播種期	3月20日			4月20日 穂数(暫定 参考値) 本/m	出穂期 月日
		草丈 cm	茎数 本/m	幼穂長 mm		
平均	11/19(-2)	24.5(105)	1243(101)	3.4(109)	657(98)	4/15(-5)
前橋市	11/16(-4)	22.6(107)	1637(114)	4.0(146)	600(79)	4/17(-6)
伊勢崎市	11/22(+4)	23.8(102)	1263(96)	2.4(89)	683(97)	4/16(-3)
高崎市	11/13(-7)	27.4(76)	1163(105)	5.0(74)	679(123)	4/13(-3)
太田市	11/25(-3)	24.1(111)	909(92)	2.0(112)	667(102)	4/15(-9)
邑楽町	11/7(-15)	30.4(139)	1795(164)	3.1(168)	646(128)	4/14(-12)

*各地区の()内は過去の平均値に対する日数および比率(%)。
 *日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。
 過去の平均値は、前橋市は過去9年、伊勢崎市は同1年、高崎市は同1年、太田市は同9年。
 邑楽町は特異値のため県平均から除外した。

表2 生育基本調査結果（農業技術センター、さとのそら）

播種期 月/日	幼穂形 成始期 月/日	節間伸 長始期 月/日	3月20日		4月10日		出穂期 月日
			草丈 cm	茎数 本/m	草丈 cm	茎数 本/m	
11/17 (+3)	3/1 (-5)	3/18 (-6)	29.0 (126)	1088 (105)	68.0 (133)	557 (72)	4/16 (-8)

* () 内は平年値は過去10年の平均に対する日数および比率(%)。

表3 普及指導課・地区農業指導センター管内の麦類の作柄概況

地区	県平均	中部	伊勢崎	西部	東部	館林
作柄概況	並	並	並	並	並	並～やや良

3 技術対策

(1) 赤かび病対策

- ア 赤かび病の防除を必ず実施する。
- イ 防除適期は小麦が出穂7～10日後、六条大麦が穂揃期、二条大麦が穂揃期10日後である。1回目の防除後に気温が高く、降雨や曇天が続く場合は7～10日後に再度防除を行う。
- ウ 倒伏したか所や赤かび病の発生が認められた場合は、刈り分けを行い健全麦への混入を回避する。調製施設等においては、荷受け時の確認を徹底するとともに、ふるい目の拡大や比重選別機、色彩選別機等を利用して被害粒を除去する。

(2) うどんこ病・アブラムシ対策

発生状況に応じて防除を行う。「つるぴかり」「きぬの波」はうどんこ病に弱く、過繁茂のほ場で発生しやすい点に留意する。

(3) 排水対策

排水不良のほ場では、排水溝の設置や手直しを行い、湿害や枯れ熟れを回避する。

(4) 雑草対策

収穫物に雑草種子が混入しないよう抜き取り等を行う。

(5) 災害対策等

降ひょうにより麦が脱粒し、麦種実がほ場に投入される場合は後作の施肥量の調整を行う。水稻の場合は、脱粒子実が300kg/10a程度では基肥窒素を1～2割減らし、脱粒子実が400kg/10a以上では基肥窒素を2kg/10a程度にとどめる。

(6) 収穫準備・適正収穫

ア コンバイン等の機械類の清掃を徹底し、あらかじめ済ませておく。荷受け施設においては、麦の生育状況に合わせた稼働計画を設定する。また、登熟期の高温は、

- 強制登熟によって成熟がより早まる場合があることに留意する。
- イ 収穫適期の目安は、穀粒水分が25%以下になった時とする。穂首の曲がり状態で判断すると、二条大麦が90%以上、小麦・六条大麦が50%以上の時である。
 - ウ 成熟期後に長雨が予想される場合、穂発芽を避けるため収穫可能な場合はできる限り収穫作業を行う。
 - エ 収穫した麦は速やかに乾燥させ、品質低下を避ける。

【参考資料】

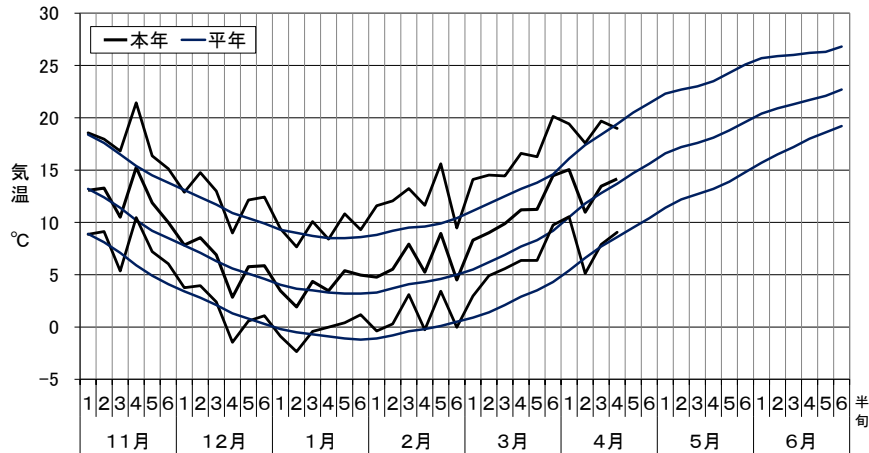


図1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）

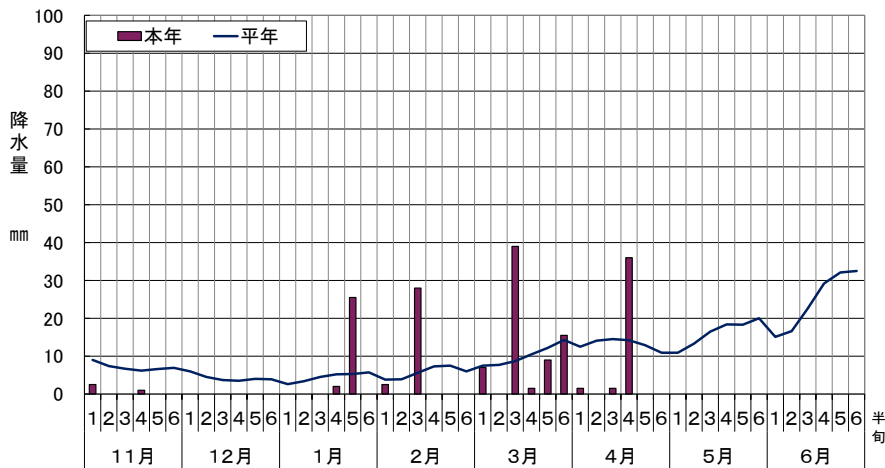


図2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

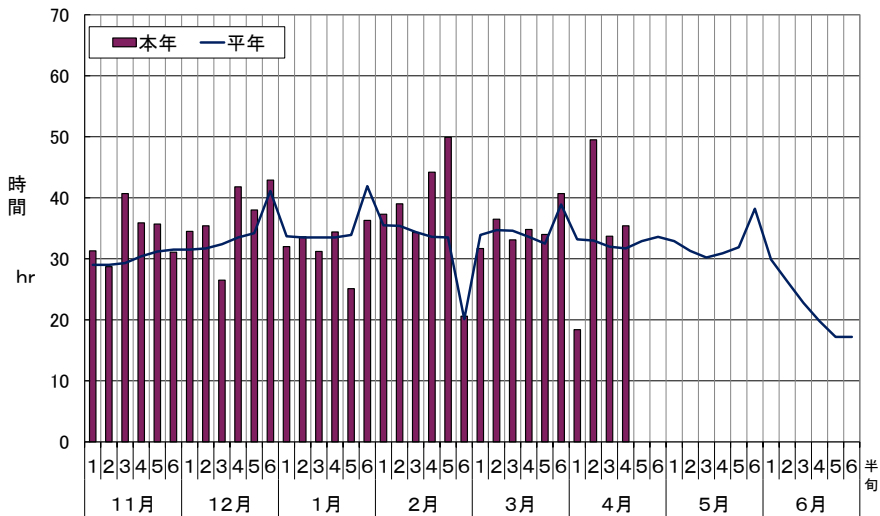


図3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）